

新型コロナウイルスワクチン接種について

いわき医師会会長 木村守和

1 三回目接種におけるモデルナワクチンの有効性と安全性について

新型コロナウイルス・オミクロン株の大流行を迎えておりますが、ワクチンの2回目接種から時間がたちワクチンの効果が薄れてきているところです。

今後の感染拡大を防ぐために、ワクチンの3回目接種を広げていくことが重要な対策となっております。

1回目・2回目接種でのモデルナワクチンの副反応が比較的強かったことから、3回目接種でモデルナワクチンを避ける傾向が認められていました。

しかし、3回目接種でのモデルナワクチンの接種は、1回目・2回目接種の半分の量となっており副反応の発現は比較的弱いものになると考えられております。

一方、半分量の3回目接種でも十分な抗体がえら得ることが明らかになっており、違う種類のワクチンを使うほうが免疫反応として対応力が上がることも指摘されており、3回目のモデルナワクチン接種は大変期待されているところです。

3回目接種を受けることができる方は、モデルナワクチンが副反応も抑えられていることおよび十分な効果を得られることをご理解いただき、積極的に接種を受けていただくことをお勧めいたします。

2 5～11歳のファイザー社製ワクチン接種について

5～11歳の新型コロナウイルスワクチンの接種について、小児用ファイザー社製ワクチンの接種が出来ることになりました。

アメリカ疾病予防センター（CDC）によると、41,232人に行われたワクチン接種の副反応について学校への出席が困難となる頻度は高くなく、医療的ケアが必要になることはまれであり、ほとんどが軽度から中等度であったと報告されています。

また、同ワクチンの2回目接種後7日以降の発症予防効果は90.7%とされています。

日本小児科医会本年1月19日の声明では「重症化することがまれな小児にワクチン接種をする意義は、成人・高齢者への接種と同等ではない」としており、「まずは小児に感染を広める成人への接種を推進し、その間に十分な準備の下に小児への接種を計画すべきである」と提言しています。

厚生労働省は専門家の意見を受けて同ワクチンの接種を「努力義務」とはせず、慢性呼吸器疾患・先天性心疾患など、重症化リスクの高い基礎疾患を持つ小児に接種をすすめている他、接種については、あらかじめかかりつけ医などとよく相談することを勧めています。

「5歳から11歳のお子様と保護者の方へ・新型コロナウイルスワクチン接種についてのお知らせ」などの資料をご参照の上、かかりつけ医などにご相談して接種についてご検討いただければと思います。